

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

平成18年の素材需給量は前年より13千 m^3 増加し194千 m^3 であった。このうち国産材は98千 m^3 、外材は96千 m^3 であった。

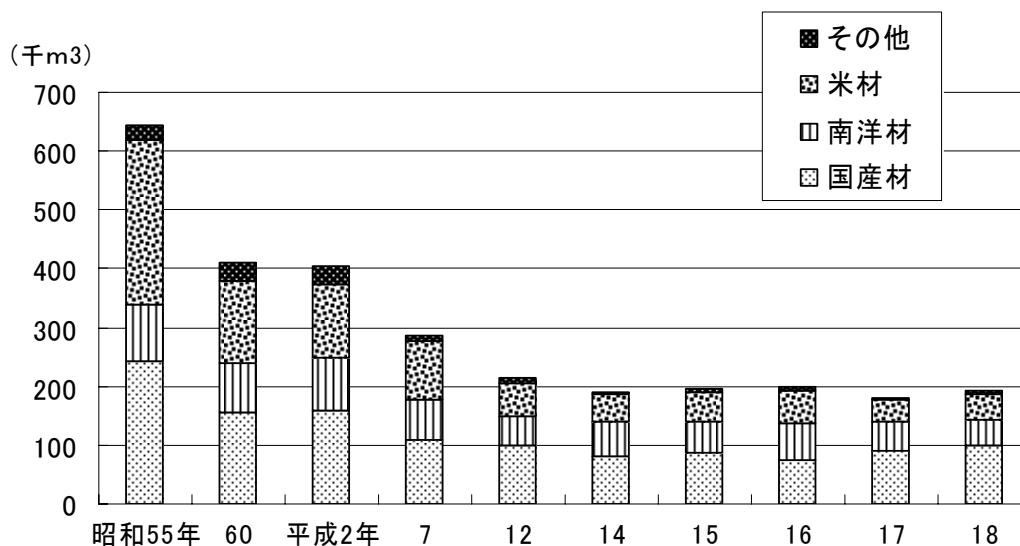
外材のうち、48%は南洋材であり、45%は米材である。

県内素材生産量は、前年より9千 m^3 増加し98千 m^3 で、樹種別でスギ65千 m^3 、ヒノキ6千 m^3 、マツ7千 m^3 、その他針葉樹1千 m^3 、広葉樹が19千 m^3 となっている。

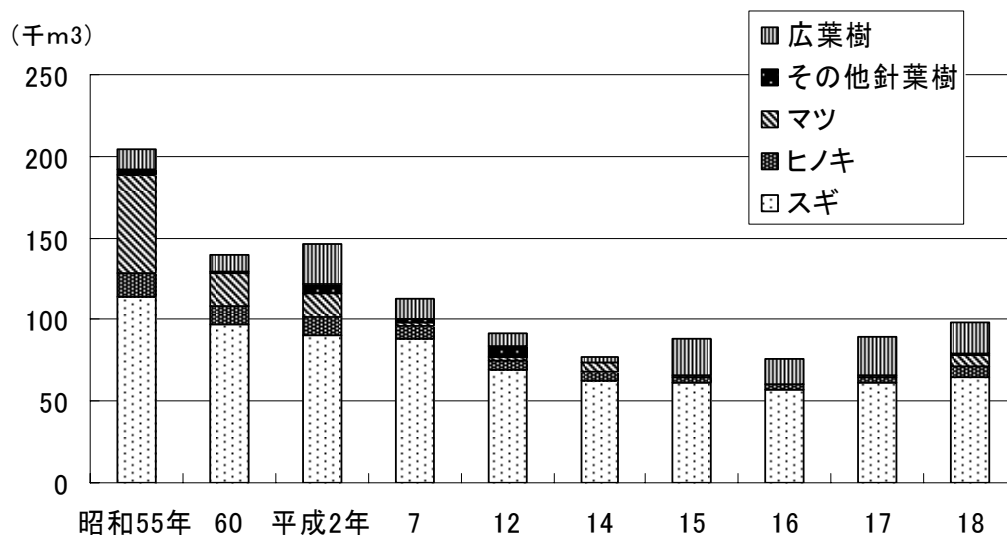
県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林は前年より1千 m^3 減少し1千 m^3 、公有林は前年より1千 m^3 減少し1千 m^3 、私有林は前年より11千 m^3 増加し、96千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は109千 m^3 、製材品生産量は68千 m^3 となっている。

素材需要量の推移



素材生産量の推移



(2) 木材価格

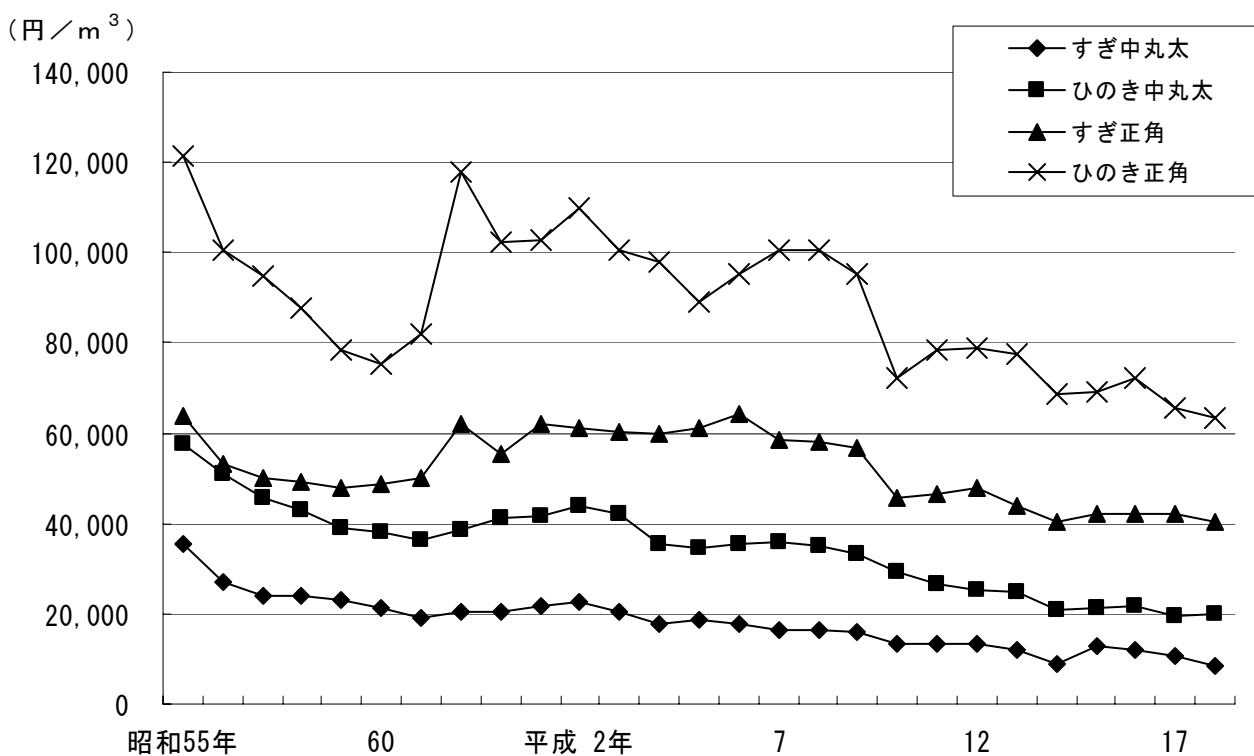
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下傾向にある。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成17年の素材の平均価格は、スギ中丸太が8,407円/m³で前年から2,065円下落し、ヒノキ中丸太が20,000円/m³で前年から458円上昇している。

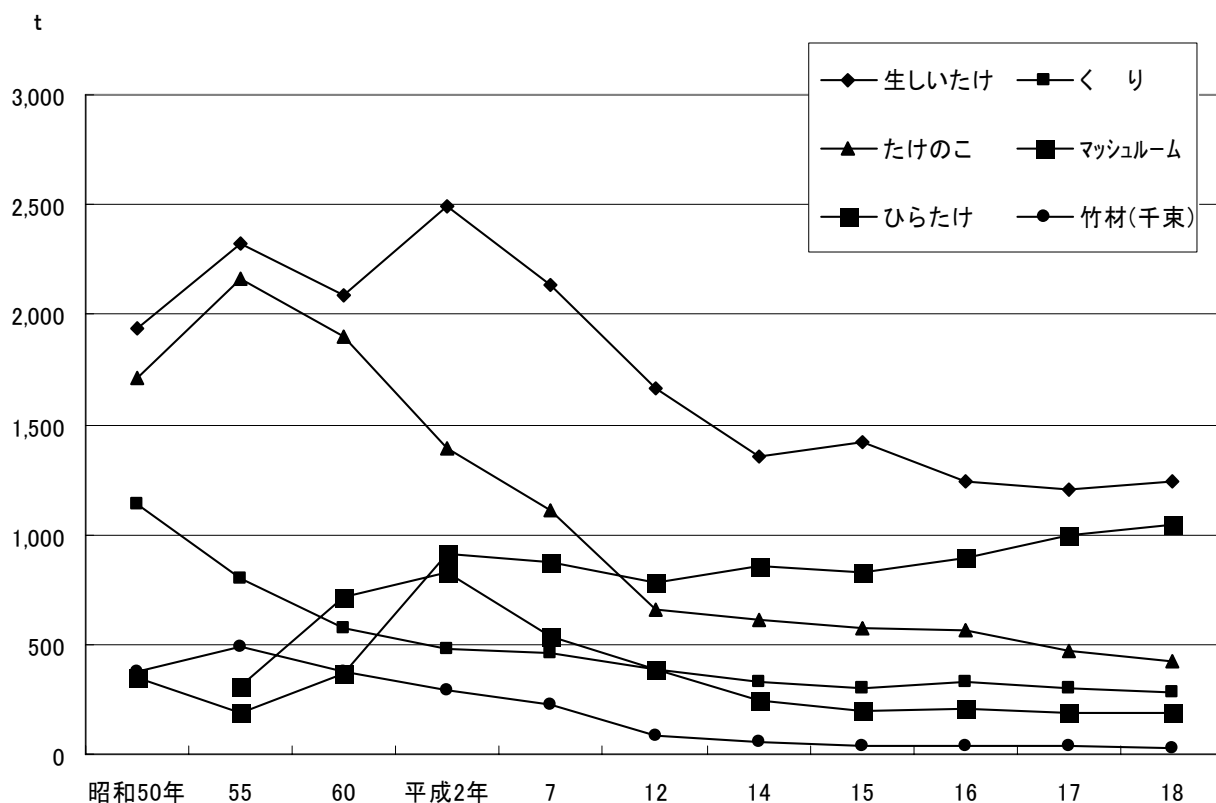
製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が40,500円/m³で前年から1,500円、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が63,417円/m³で2,166円下落している。

木材価格の推移



(3) 特用林産物の需給

主要特用林産物生産量の推移



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは原木栽培から自家菌床栽培への切り替えが進んでいるところであるが、前年比3%増の1,243tの生産となった。地域別では千葉が337tと最も多く、次いで夷隅・君津・長生の順となっており、これらの地域は補助事業等を導入して産地化が図られている。

マッシュルームは海匝・香取地域において、対前年比4%増の1,044t生産されている。

ヒラタケは、対前年比0.1%増の185tとなっている。

タケノコは生産者の減少、不作及び獣害により前年比11%減の420tの生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く264t、次いで長生・安房の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比8%減の279tとなった。

竹類では対前年比15%減の29千束となっている。